



# 四中だより

令和7年(2025年)

11月4日(火)

豊中市立第四中学校

## 秋深まり、本格的に後期始動



数日前の冬のような寒さがウソのように、快晴の空の下、第75回体育大会は無事に終わりました。最後の講評でも話しましたが、係の人がきびきびと自分の仕事を頑張っている姿が何よりも印象的でした。

私にとっては初めての四中の体育大会でした。係の仕事ぶりや、リレーで転んで動けない人を競技中に思いやれる優しさのように良い所もたくさん見ることができました。反面、本番だけ、自分だけ、ではどうにもならない、「日頃」の延長として結果がふるわなかった課題も見取ることができました。

その一つは、「声を出す」ということです。

後期の生徒会執行部も、各クラスでは委員や係も決まり、それぞれの活動が本格的に始動してきました。

3年生は進路を決めていくための長く気の重い日が続きます。体調管理をしっかりしましょう。努力は嘘をつきません。一人では辛いから友達と支え合っていきましょうね。

2年生は、まずさっそく11日から職場体験ですね。働かせてもらうという「感謝の気持ち」をしっかり表現しましょう。思っただけでも伝わらなければ、お互いにストレスです。だから「返事」や「あいさつ」が「相手に届くようにする」のはとても大切です。学校を離れた「社会」でたくさんのことを学んできてください。

1年生は、校外学習もありますし、すでに始まっているのが12月12日の合唱祭に向けての取り組みです。一人ひとり体の大きさや骨格が違うので、いろいろな「声」を私たちは持っています。男子は声が出にくい時期を迎えています。それに恥ずかしさもありますよね。四中生は正面を向いて堂々と歌えるのでしょうか。それぞれの違いをそろえて、どんなハーモニーを聞かせてくれるのでしょうか。とても楽しみです。

合唱祭は、体育大会以上に日頃の練習、クラスの様子をはっきりとわかる行事です。

私事ですが、私は担任をしている時は、体育大会の競技の優勝よりも、旗の順位を。旗よりも一日を通した応援賞を。応援賞よりも、合唱祭の最優秀を皆でめざしていました。出だしの音を、仲間を信じてしっかり出せるクラスをめざしてきました。いろんな違いがある中で「声」をそろえることは本当に難しいことです。

1年生より、2年生、そして卒業に向けて歌う3年生の合唱祭を今から楽しみにしています。でも一足飛びに3年生になれないので、1年生からしっかり頑張ってください。

こんなことを学校で教え  
なくてはならない時代に  
なりました。気をつけよう

## 各学年の11月の主な行事

- 全学年： オープンスクール（6日）、闇バイト防止教室（17日）  
期末考査（25～27日）
- 1年生： 校外学習（13日）
- 2年生： 職場体験に向けての取り組み
- 3年生： 平和学習（11日）、制服セミナー（14日）、三者懇談（17～21日）

## 一つ一つの「選択」が

## その人の「運命」といえるかもしれない

通勤中カーラジオを聞いていると、DJ（ディスクジョッキー）さんが、曲紹介の時に上のようなことを言っていました。

どんな歌詞なんだろうと言葉を追っていましたが、よくわかりませんでした。

3年生はこれから自分の進路（進んでいく道、将来への一歩）を選択していくわけですが、そんなたいそうなことでなくても、私たちの毎日は小さなことを含めて「選択」の連続です。どっちを選ぶか、どれを選ぶか、その選択こそ、確かにその人の「運命」なのかも知れません。

友人が人は一日にすごい数の選択をしてるらしいよと、その数を教えてくれたのですが忘れてしまったので、「人は一日何回選択する」と検索してみました。さて何回だと思えますか？ こんなことを研究している学者もいるんですね。ケンブリッジ大学の教授によるとその数、およそ35,000回ということです。

そこで思い出したのが、最近四中生を見ていて、ずっと考えていることとつながりました。それは2023年11月5日、北海道旭川市の旭川東高校の野球部員を指導した後イチローさんが部員たちと語った言葉でした。

（略）導いてくれる人がいないと楽な方に行くでしょ。自分に甘えが出て、結局苦勞するのは自分。厳しくできる人間と自分に甘い人間、どんどん差が出てくる。厳しくできる人間はどんどん求めていくわけだから。うまくなったり強くなったりできる。求めてくる人に対しては求められる側もそれはできる。でも求めてくれなかったらできないから。でも自分を甘やかすことはいくらでも今できちゃう。そうなってほしくない。いずれ苦しむ日が来るから。大人になって、社会に出てからも必ず来る。できるだけ自分を律して厳しくする」。高校生とはいえ、自らを追い込み挫折も味わって強くなると説いた。（略）

<https://www.sponichi.co.jp/baseball/news/2023/11/06/articles/20231106s00001002555000c.html>

自主性やほめることを重んじる教育の流れの中で、厳しく指導することのさじ加減の難しさを指摘した記事でした。自主性を待っているうちに時は流れていき、それもまたその人の「運命」と突き放してて良いものなのかなと…。秋は物憂げですね。